

〔優秀賞〕

◇ 男女の間にある壁

葛生義務教育学校 6年 高橋 美緒



気の合う友達との会話は、次々に伝えたいことが出てきて話が止まりません。話をしていると、休み時間があっという間に終わってしまいます。私たちは、夏休み中にも遊ぶ約束をしました。

仲の良い三人の友達と、夏祭りへ行きました。出し物を見たり、屋台の食べ物を食べたりしました。何気ない会話も、いつもより楽しく感じます。前の方から、同級生の友達のグループが来て、すれ違う時にこう言われました。

「男子三人の中に、女子が一人でいるのはきついでしょう。私たちと一緒にまわろうよ。」私は、今一緒にまわっている男の子の友達といたかったので、さそいを断わりました。すると、

「男子といふことが多いよね。男子っぽい女子だよね。」
て言われました。

私はその言葉に、男女の間にある壁を感じました。たしかに私は女の子で、一緒にいる友達は男の子です。だからといって、男の子っぽい女子だと言われてしまうのは、なぜだろう。男の子の中に、女の子が一人でいるのはおかしいと思われてしまうのは、なぜだろう。男の子だけど、私にとっては大切な友達なのに。

男の子、女の子という固定観念があります。この固定観念をなくしていきたいと強く思いました。女の子と一緒にいたい女の子、男の子と一緒にいたい男の子がいます。それと同

じように、男の子と一緒にいたい女の子も、女の子と一緒にいたい男の子もいます。自分が一緒にいたいと思う友達に、性別は関係ありません。まわりからどう思われるようと、自分が一緒にいたいと思う友達と、堂々と一緒にいることが大切なのだと思います。

自分が自分であるためには、自分が好きなこと、きらいなことをはっきり伝えていかなければならぬと考えます。ですが、まわりの人にどう思われるのかを考えすぎてしまい、自分の好きやきらいを伝えられる人が、少ないのでしょうか。自分の好きときらいを伝えることができず、苦しんでいる人が、近くにたくさんいるのではないでしょうか。そんな気持ちをもつ人々が、安心して発信できるように、今から私たち一人一人が変わらなければなりません。相手の気持ちを考えた発言をすることや、男の子と女の子の違いで壁を作らず、同じ人という見方をして、日々を過ごしていかなければならないと強く思います。

人々が協力して、色々な個性をもって生きられる世界をつくりたいです。そのためにも、男の子と女の子の壁をこわすことを今から地道にやっていくしかないのだと思います。私は、世の中の人だれもが、暮らしやすいと思う世界にできるように努力していきたいです。